

財 務 ・ 会 計

令和3年度 中小企業診断士1次試験

本試験 第3問

キャッシュフローが増加する原因として、最も適切なものはどれか。

- ア 売掛金の減少 (○)
- イ 仕入債務の減少 (×)
- ウ 棚卸資産の増加 (×)
- エ 長期借入金金の減少 (×)

本試験 第4問

- イ のれんは取得後、5年以内に毎期均等額以上の償却をしなければならない (×)。
- エ 負ののれんが発生した場合、当該期間の特別損失とする (×)。

本試験 第7問

以下の資料は、工場の2020年8月分のデータである。このとき、製造指図書 #11の製造原価として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

【資料】

(1) 直接費

製造指図書	材料消費量	材料単価	直接作業時間	賃 率
#11	50kg	@2,000円/kg	100時間	1,200円/時
#12	60kg	@2,500円/kg	110時間	1,200円/時
#13	50kg	@1,500円/kg	90時間	1,200円/時

(2) 間接費

製造間接費実際発生額：150,000円

製造間接費は直接作業時間を配賦基準として各製品に配賦する。

〔解答群〕

- ア 220,000円 (×)
- イ 228,000円 (×)
- ウ 270,000円 (○)
- エ 337,000円 (×)

本試験 第14問

- イ 減価償却は内部金融に分類される (○)。
- ウ 増資により発行した株式を、銀行が取得した場合は間接金融となる (×)。

本試験 第17問

- イ 倒産リスクの高低は、最適資本構成に影響する (○)。
- エ 法人税が存在する場合、負債比率の水準は企業価値に影響しない (×)。

2021年合格目標 TAC教材

1次養成答練 第20問

キャッシュフロー計算書における営業活動によるキャッシュフローの区分（間接法）で増加要因として表示されるものはどれか、最も適切なものを選べ。

- ア 売上債権の増加 (×)
- イ 棚卸資産の減少 (○)
- ウ 仕入債務の減少 (×)
- エ 短期借入金金の増加 (×)

1次上級答練 第5問

- a のれんは、無形固定資産に計上し、10年以内のその効果の及ぶ期間にわたって、定額法その他の合理的な方法により規則的に償却する (×)。
- b のれんは、無形固定資産に計上し、20年以内のその効果の及ぶ期間にわたって、定額法その他の合理的な方法により規則的に償却する (○)。
- c 負ののれんが生じると見込まれる場合は、当該負ののれんが生じた事業年度の損失として処理する (×)。
- d 負ののれんが生じると見込まれる場合は、当該負ののれんが生じた事業年度の利益として処理する (○)。

1次上級答練 第12問

当社は、個別原価計算を実施している。次の原価データに基づき、売上原価の金額として、最も適切なものを下記の解答群から選べ（単位：千円）。

・製造指図書別データ

	No.101	No.102	No.103
材料消費量	500個	400個	900個
直接作業時間	1,000時間	1,200時間	1,800時間
備考	当月着手仕掛中	当月着手・完成引渡済	当月着手・完成未引渡

- ・直接材料費 1.5千円/個
- ・直接労務費 1千円/時間
- ・製造間接費 2,000千円（直接作業時間を基準として配賦）

〔解答群〕

- ア 1,850 (×)
- イ 2,250 (×)
- ウ 2,400 (○)
- エ 4,050 (×)

1次上級答練 第18問

- ウ 株式発行による調達、内部金融のうち直接金融に分類される (×)。
- エ 利益の内部留保や減価償却による調達は、内部金融であり長期資金である (○)。

1次公開模試 第22問

- ア 法人税が存在する市場においては、企業の加重平均資本コストは資本構成に影響されず、企業価値に差は出ない (×)。
- エ 法人税を考慮した場合でも、負債比率を増加させすぎると、負債利用による節税効果より、倒産リスクによる資本コスト上昇の影響が大きくなり、企業価値は減少に転じる (○)。

本試験 第22問 (設問2)

これらとは異なるアプローチとして、類似の企業の評価尺度を利用して評価対象企業を相対的に評価する方法がある。利用される評価尺度は (C) と総称され、例としては株価と1株当たり純利益の相対的な比率を示す (D) や、株価と1株当たり純資産の相対的な比率を示す (E) がある。

(設問2)

文中の空欄C～Eに入る語句および略語の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。

- ア C:ファンダメンタル D:EPS E:BPS (×)
イ C:ファンダメンタル D:PER E:PBR (×)
ウ C:マルチプル D:EPS E:BPS (×)
エ C:マルチプル D:PER E:PBR (○)

1次養成答練 第13問

次の文章中の空欄 A および B に入る用語として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

企業価値評価では、一般的に PBR や PER などの諸比率を用いたマルチプル法 (乗数法) に代表される と呼ばれる手法のほか、企業の期待キャッシュフローの割引現在価値によって評価額を推計する などといった手法も用いられている。

〔解答群〕

- ア A:マーケットアプローチ B:コストアプローチ (×)
イ A:マーケットアプローチ B:インカムアプローチ (○)
ウ A:インカムアプローチ B:コストアプローチ (×)
エ A:コストアプローチ B:インカムアプローチ (×)